

# 第1回円空大賞円空賞

## 江口週（えぐちしゅう）

### プロフィール

国籍：日本

生年：1932年京都府生まれ、東京都八王子市在住

職業：彫刻家



### 作家略歴

1932年：京都市に生まれる

1957年：湯原和夫、関敏と「三人展」（ときわ画廊／東京）

1965年：第1回現代日本彫刻展大賞受賞

1966年：第9回アントワープ国際野外彫刻ビエンナーレ出品（ベルギー）

1968年：第1回インド・トリエンナーレ出品（ニューデリー）

1974年：第3回平櫛田中賞受賞

1977年：第8回中原悌二郎賞受賞

1980年：第8回長野市野外彫刻展賞受賞

1984年：今日の造形・木と紙-自然との対話（岐阜県美術館）

1988年：現代日本木彫フェスティバル（岐阜県関市文化会館／90, 92, 94出品）

1991年：第2回倉吉：緑の彫刻展受賞

1993年：第24回中原悌二郎賞受賞

1997年：平成8年度芸術選奨文部大臣賞



### 受賞理由

- ・江口週氏は、日本の現代彫刻を代表する作家の一人であり、一貫して木彫による抽象彫刻を制作し、彫刻の本質を問い続ける姿勢は、叙情性と理性性を合わせ持つ作品群として結晶している。
- ・同氏の作品制作は、60年代の、空間に弧を描く形態とノミ跡による処理から、70年代後半には作品形態はより直線的で簡潔となり、木自身の性質に即した基本的な形態の組み合わせへと移行していった。
- ・作品は、抽象彫刻でありながら生命感があり、無機性の中に有機性を感じさせる。木の中から形を掘り出すという一点に意識を集中させることで、彫刻の本来の姿の探求へと向かい、近年は、建築の断片のような最小限の木材で構成された作品によって、とぎすまされた空間を生み出している。
- ・その業績は高く評価され、平櫛田中（ひらぐちでんちゅう）賞、中原悌二郎賞、芸術選奨文部大臣賞などを受賞している。
- ・常に彫刻とは何かを問い続け、木と対話していく江口氏の制作態度と作品は、見る者をして精神の自由を実感させ、深い感銘を与える。このような観点から、円空賞の受賞者としてふさわしい人物である。



### 作業風景

撮影：松藤庄平 写真提供：芸術新潮

神代杉に鑿（のみ）を揮う製作者江口週氏。

大きさがあるだけに屋外の駐車場が作業場となった二つの部分からなる作品を実際に取り組むにも、クレーン車の助けが必要なのです。